



夏の加瀬沼

厚生協会だより

2019年7月21日
第 356 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：平賀秀法

私たちは求めます (Forever Peace)

いわねしげみつ

1. 私たちは求めます 核兵器のない世界を
人類の生存のため 子どもたちの未来のため

私たちは求めます この美しい日本に
米軍基地はいらない 平和を取りもどすため
ノーモア Nuclear Weapon ノーモア ヒロシマ・ナガサキ
ノーモア フクシマ Forever Peace

2. 私たちは求めます 原発廃止させよう

核のエネルギーはいらない 自然再生エネルギーにしよう
私たちは求めます 人間の保護第1を
核の暴走を止めて 守ろういのちと暮らし
ノーモア Nuclear Weapon ノーモア ヒロシマ・ナガサキ
ノーモア フクシマ Forever Peace

3. 私たちは求めます 憲法9条を守り

世界中に広げることを 争いなくするために
私たちは求めます 確かな安心・安全
世界中でできずな強め 平和な地球にしよう
ノーモア Nuclear Weapon ノーモア ヒロシマ・ナガサキ
ノーモア フクシマ Forever Peace

ニュークリア ウェポン
* 「Nuclear Weapon (核兵器)」

2018年度決算を振り返って

公益法人としての事業継続と さらなる発展を目指して

専務理事 平賀 秀法



経営状況

経常利益は、上半期は予算に大きく届きませんでした。が、下半期の予算確保により通期で4億4千万円の黒字を計上することができました。ただし、収益の半分以上を占める入院収益が予算から大幅に不足しており、予算管理上の課題を内包したものとなりました。

4病院では、坂総合病院は新入院数と救急搬入数を前期から大きく伸ばしましたが、入院収益の不足が顕著となっています。在院日数の短縮や長期在院患者の管理など、ベッド管理の徹底や地域との連携が問われます。長町病院は経常利益では予算を超過しましたが、事業収益では入院、外来、介護、保健予防など、全ての部門で予算未達となっています。古川民主病院も経常利益では予算を超過しまし



専務理事
平賀 秀法

2018年度収支（事業所別）

単位：百万円

	事業収益			事業費用			経常利益		
	実績	予算	増減	実績	予算	増減	実績	予算	増減
坂 合 計	9,217	9,152	65	8,950	8,838	112	261	295	▲ 34
長 町 合 計	2,494	2,541	▲ 47	2,391	2,451	▲ 60	99	72	27
古 川	1,040	1,069	▲ 29	1,032	1,071	▲ 39	22	9	13
泉	1,449	1,523	▲ 74	1,478	1,500	▲ 22	▲ 25	26	▲ 51
診療所合計	638	636	2	620	630	▲ 10	20	8	12
歯科合計	325	326	▲ 1	318	315	3	11	11	0
ケアST合計	1,025	1,015	10	975	973	2	54	42	12
南光台包括	15	14	1	47	46	1	▲ 5	▲ 5	0
事務局	0	0	0	26	38	▲ 12	3	0	3
法人合計	16,203	16,276	▲ 73	15,836	15,862	▲ 26	439	457	▲ 18

たが、増やした地域包括ベッドや介護療養病床の稼働数は予算通りになっていません。泉病院は年度後半から大幅に

減収減益となり、経常赤字に陥っています。坂総合病院以上はベッド管理や地域連携で不十分さが問われます。外

財務状況

来の特徴は、患者数がほとんどの事業所で減少していることです。全世帯型の社会保障を構築するとした利用者負担を強いる政策や人口減少が進む環境下では、ここ数年の傾向は続く認識しなければなりません。

2018年度の事業キャッシュフローは10億5千万円で、前期より△2億円減少しています。これは、好調だった2月3月の診療報酬の入金が4月以降であること、退職金支出額が増加していることが影響しています。一方で、今年度の通常設備投資や借入金返済等の支出合計額は減少しているため、現預金残高は期首から2億2千万円増加しています。今後も経営構造転換5ヶ年計画で示した大型投資に備え、自己資金15億円以上の確保が可能な事業キャッシュフローの水準を追求しなければなりません。

費用としての退職給付引当金繰入額は100%に達したことから今後は抑えられることとなります。一方で、定年

退職を含めて実際の退職金支出額は、今後数年間はかなり高くなります。企業年金等の外部拠出をしていない協会にとっては、資金繰り上の負担は高く、損益だけでなく資金面からも退職金の状況を適切に認識しておく必要があります。

2019年度予算

2019年度予算は経常利益で4億6千万円としています。主には、大幅増収を図ることで損益水準を維持拡大する予算となっています。一方で、経費で多くの割合を占める人件費は、予算人員はむしろ前年度実績より減少しているにもかかわらず、常勤・非常勤給与と法定福利費の増加額は3億円を超えています。これは、退職給付引当金繰入額が△1億5千万円減少しているなかでの増加になります。7月から稼働する人事システム等も活用し、あるべき予算人員を常時検証し予算管理を徹底しなければなりません。いずれにしても、人件費が前年度よりも増加することは確実であり、経営構造転換

5ヶ年計画で掲げた経常利益5億円を達成するためにも、事業収入を確実に確保することが中心的経営課題となります。

予算遂行上では、入院収益での大幅増額4億円を確実に実践できるかになります。特に、坂総合病院の増収幅が大きく、日当やベッド稼働率

2018年度損益計算書

単位：百万円

科 目	累計実績	予算	増減額	前年度実績	増減額
〔事業収益〕	16,203	16,276	▲ 73	15,939	264
入院収益	9,314	9,575	▲ 261	9,153	161
外来収益	4,483	4,290	193	4,397	86
介護収益	1,547	1,553	▲ 6	1,524	23
〔事業費用〕	15,836	15,862	▲ 26	15,590	246
人件費	10,079	10,268	▲ 189	9,985	94
材料費	1,994	1,841	153	1,854	140
委託費	1,249	1,238	11	1,209	40
経費	1,497	1,494	3	1,523	▲ 26
減価償却費	590	594	▲ 4	611	▲ 21
消費税	370	369	1	352	18
〔事業利益〕	367	414	▲ 47	349	18
【経常利益】	439	457	▲ 18	428	11
〔当期利益〕	409	457	▲ 48	437	▲ 28

の引き上げが不可欠となります。また、泉病院も前期比で8.7%もの増収を図る積極的予算としています。ベッド稼働率の引き上げはもちろん、日当を引き上げる対策も同時に実践しなければなりません。

また、2019年度の事業キャッシュフローは、資金支出をとまなわなない費用の退職給付引当金繰入額や減価償却費が減少し9億円程度になることが見込まれます。これから数年ごとに迫られる大規模設備投資に備えた自己資金確保として、損益と資金の両面から経営管理を行うこととなります。

地域医療支援病院の坂総合病院は入院を中心とした救急や専門医療を、長町病院は回復期リハ病床や地域包括ベッドを含む一般病床で、泉病院はこれまでに脳血管疾患から脳神経

難病での中核的な役割を、古川民主病院は地域包括ベッドの活用や介護医療院への転換を、歯科部門は全年齢層を対象とした急性期と生涯管理を、ケアステーション（訪問看護・介護）は医療依存度が高い方へも質の高い看護と介護を提供し、安心して自宅で生活が送れるよう、全ての事業所が地域の医療機関や介護施設等と連携を強め、経営の安定と存在感を高めていきます。



加瀬沼公園

環境問題学習会

テーマ

バイオマス資源の適正利用による
循環型社会を考える

講師：泊 みゆきさん NPO法人バイオマス産業社会
ネットワーク理事長

県連石炭火力発電所問題を考える会事務局長・協会本部事務部長 萩原 修

6月15日(土)午後、坂総合病院教育ステーションにて27名が参加し、標記テーマで学習会が開催されました。



報告する泊さん

今回の学習会は、仙台港の石炭火力発電所では、操業差し止めが裁判で争われ、二つ目の四国電力・住友商事の石炭・バイオ混焼は、四国電力が下りてバイオ専燃で再検討中、3つ目のレノバ社のバイオ発電は動きが見えなくなつた中、県内でも、仙台港や石巻、角田市などで、輸入バイオマス燃料(木質チップやペレット、パーム油、マメ科植物油他)を使った「バイオ発電所」が、環境にやさしいかのように宣伝され次々と建設されようとしていることから、急ぎよ開催されました。

「正」利用や「循環型社会」に、企画した医師たちの問題意識がうかがえます。

「バイオマス」の種類や利用形態(残渣や産業廃棄物、ごみを中心)、事業主体は様々ある中で、再生可能エネルギー電力固定買取制度(FIT)の政策の誤り(よくないバイオを入れてしまった)が原因で急増していること、また、そのために経産省は見なおしの方向に着手しており、市民の運動で、「事業者の立場も考慮しつつ、社会的により良い方向に着地(終わらせる)ことが重要」と指摘されました。

いずれのバイオマスも温室効果ガス排出が、LNG発電よりも多く、太陽光や風力などの発電コストが劇的に安くなりつつある中、廃棄物や残渣以外のバイオマスは経済性にも劣り、熱利用や熱電併給で(輸入せずに)、利用するのが王道と説明されました。スライドで示された、熱帯林破壊や泥炭露出の実態、そこで働く女性や児童の強制労働、食料生産に使われるべき農地が輸出発電燃料に振り向けられるなど、環境面にとどまらない社会経済面の否定的影響もあることが紹介されました。すでに終わったコンテナ「おわコン」としてのバイオ発電を市民の運動で、企業家に「損切」させて終える方向が示されました。

石炭火力発電所は全国で3つが裁判で争われ(仙台、神戸、千葉)、メディアも訴訟リスクを報じ、パリ協定後、仏(2023)、英(2025)、加(2030)、独(2038)などで、石炭火力発電所からの撤退が表明されるようになり、日本は石炭や原発から撤退しない計画が先ごろ閣議決定。今後の取り組みの糧となる学習会でした。



会場風景

寄稿

「旧優生保護法

仙台地裁判決に思う」

(その1)



坂総合クリニック医局

村口 至

本年5月28日標記の判決がなされ、全国的に初であることもあり大変注目されました。

私は、次のように受け止めました。

(1) 憲法違反であることを明確に指摘したことは「画期的」でした。なぜなら、従来からの政府見解は、「国会の全会一致で成立したもので合法的である」の一点張りでしたので、その見解を完全否定したこと。

(2) 一方で、人生を奪ったことへの国家賠償を拒否したことは、「憲法の重み」をとら

え切れず、法制度の問題に収

れんさせた限界を超えられな

かったこと。しかしここで注

目したいのは、「わが国にお

いては、リプロダクティブ権

(生殖と生殖に関する健康とそ

の権利)をめぐる法的議論の

蓄積が少なく、憲法違反の問

題が生ずるとの司法判断が今

までなされてこなかった」と

国民運動の弱さを指摘したこ

とが重要と受け止めました。

〈医師の決定的関わり〉

「優生保護法の強制手術」を考える時、われわれ医師自身にも問題が投げかけられて

います。なぜなら、手術の強制へ導いた全ての関門に医師が関わっていたからです。

第1関門…①医師の診断書

から発し(ただし、旧法では診断したら届けねばならぬという義務規定)、②医師の遺伝性精神病の診断書で強制手術を決定的にしたこと。法第4条は、遺伝性精神病患者は、本人の拒絶があっても強制手術せよというもので、診断書でほぼ決まりました。宮城県は、多い時期では全国平均2%を超え12%でした。つまり精神的「疾患」を背景に持つ少年・少女が対象となつたことを示唆しています。その精神疾患名では「精神薄弱児」が多く、当時から「遺伝性」の科学的根拠は「薄弱」であるとの論議もあったのでした。

第2関門…③強制手術可否審査会(県)。「官報」には、審査委員として「医師、民生委員、裁判官、検察官、学識経験者」とあり、本県では、県医師会長、東北大学医学部精神科教授、産婦人科教授、県衛生部長などが医師として

必ず加わっている中で申請者のほとんどを手術適応と認定しています。

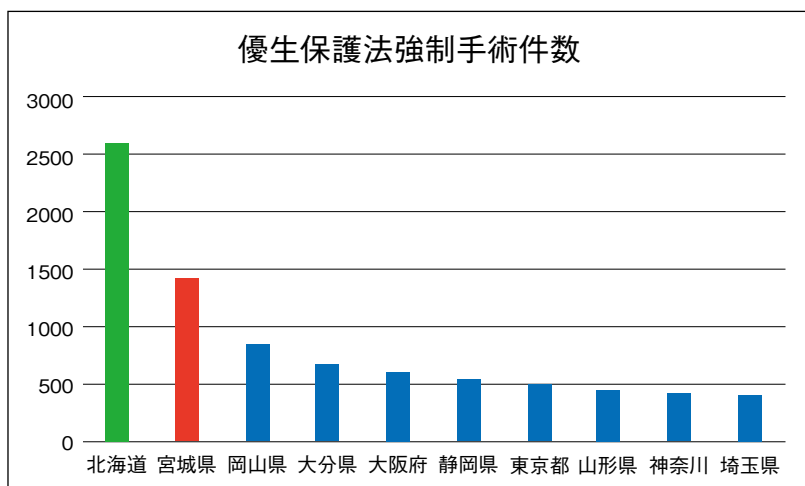
第3関門…④手術施行(医師)。

本県では、県立愛宕診療所が8割近くを施行したとなっており、当時の院長は、「人口資質の劣悪化を防ぐため精薄者を主な対象とした優生手術を強力に進めておりま

す」と誇らしく述べています。なお、新生園(国立ハンセン氏病収容施設)で手術に加わったことがあるという医師は、国の施策であり県の権威ある審査を経ての指示であることから「何ら違和感や、人権意識に触れる感じはなかった」と語っています。

(次号に続く)

優生保護法強制手術件数





トラクタートレインの前で(夫と)

小岩井農場に家族で 記念旅行



ケアステーションいずみ所長

萩原 綾子

3回目の成人式を迎えて

とうとうこの4月に3回目の成人式を迎えました。家族から記念に何がしたいかと聞かれ、小岩井農場に行って家族でゆっくりしたいと思いたち、娘夫婦と孫2人、そのほか3人の子供たち、そして(大事な?) 夫にも都合をつけてもらって旅行が実現しました。大人7人、子供2人の記念旅行です。

今から29年ぐらい前に小岩井農場に家族旅行に初めて出かけ、雄大な岩手山と、広々とした空間、時間がゆったりと過ぎていく感じが大好きになって、子供が小さいうちはほぼ毎年出かけていました。最後に行ったのは末っ子が小5の時だそうなので、いつの間にか11年過ぎてしまいました。今回家族が増えて、みんなで一緒に旅行できるのはとても素敵なありがたいことです。

2日間で、雨の日とさわやかに晴れた日の小岩井とを過ごしました。楽しかったのは今でもやっているトロ馬車に2回も乗ったこと。その昔乗馬体験で乗った「流星号」が今はトロ馬車をひいていました。当たり前のことですが、人間と同じように馬も年を取って、若い頃とは違う仕事をするのですね。でも強制的に70歳まで仕事をさせられるのはごめんです。



雨の小岩井



岩手山を望む

2日間の～んびり過ごす

今回体験した中で一番のお勧めは、「トラクタートレインで行く自然満喫ツアー」です。これは初めてでしたが、普段非公開の森林エリアを巡るツアーです。小岩井開拓時代からの100年杉の林やしっとりしたコケの生えた切り株など、小さい頃の家の裏山を思い出させる、どこか懐かしい風景でした。マイナスイオンをたくさん浴びて気持ちが落ち着くように感じました。(ネットで検索したら2013年には実施されていました)



子どもや孫たちと

残念だったのは、天文館がカフェに変身し、さらに、望遠鏡が故障していて見られなかったこと、遊園地にあるような子供向けのアトラクションがいくつもあったこと、広々とした牧草地が魅力ただけに世俗的な感じは否めませんでした。それから、岩手山の頂上が雲に隠れていたこと、天気が悪くて満天の星を見ることが出来なかったことでしょうか。

それでも2日間の～んびり過ごすことができ、大好きなビールもおいしく、鮮やかな緑に囲まれて最高の小岩井でした。ゆっくり過ごしたい方にはお勧めです。

(注：私は決して小岩井の回し者ではありません)